

平成 28 年度 第 2 回南区まちづくり懇話会

- 1 日 時 平成 28 年 8 月 19 日（金） 午前 10 時から正午
- 2 場 所 南区役所 2 階 A 会議室
- 3 (1) 出席委員
兼田委員、辻田委員、金子委員、上田委員、福原委員、吉村委員、井村委員、平川委員、赤松委員、岡委員（副会長）、宮本委員、田中委員（会長）、金井委員、島田委員

(2) 出席職員
南区長、区民部長、保健福祉部長、総務企画課長
- 4 配布資料
(1) 一会議次第
(2) 一委員名簿
(3) 一資料 1「平成 28 年度南区まちづくり推進事業一覧」
(4) 一資料 2「第 61 回災害対策本部会議資料」
- 5 次第
(1) 開 会
(2) 議事 ①平成 28 年度南区まちづくり推進経費の再編成について
②熊本地震の振り返り（課題・取り組みなど）
(3) 意見交換
(4) その他
(5) 閉 会

6 議事録

事務局 開会

会長 まず議題1について、事務局から説明をお願いします。

事務局 (事務局説明)

会長 今回、大変な地震があったので、まちづくり推進事業の新規事業は取り止めて、復興支援を強化するという内容だと思う。
私は、本年度はこれ以上行政に過度な負担を求めるのは違うと思っている。たとえば、「まち歩き手帖」の改訂については、今だからこそまちにもっと人が出ていくべきだと思っている。もっと、どこが被災して、どこが危険なのかということを地域で把握するべき。予算上はカットされるのは仕方ないが、懇話会や地域で何かできることはないのか、意見交換の時にお話ししたい。
続いて、議題2について、事務局から説明をお願いします

事務局 (事務局説明)

会長 前は熊本地震から一ヶ月経過後の状況、今回は四ヶ月経過後の状況について報告があった。この間、区役所のみなさんが避難所の運営等に尽力されたことに対して、心から感謝したい。
今の報告からも南区の被害が甚大だったことがわかる。
何かご質問・ご意見はないか。

吉村委員 たとえば、4世帯が入居しているアパートが被災した場合は、4件になるのか。統計の件数は、世帯数をカウントしているのか。

総務企画課長 世帯数でカウントしている。

会長 避難所が8月28日に閉鎖される予定ということだが、これまで区役所のみなさんは、過度な勤務状況にあったと思うが、避難所が閉鎖されることで改善されるのだろうか。

総務企画課長 現在、家屋被害調査のため総務企画課から1名職員を出している。

本庁でも復興部で職員が足りない状況が続いており、避難所が閉鎖されても他の復興業務が残っているためすぐに通常の形に戻るのは難しいと思っている。

会 長 今度、熊本市復興計画のワークショップがあるため、そのファシリテーターを務める予定だが、復興部のみなさんもとても忙しい状況にある。南区のためにまちづくり懇話会で何ができるのかを話したいと思っている。

総務企画課長 総務企画課は南区のまちづくりを推進しているが、行政主体ではなく、地域主体のまちづくりに行政が協力させていただくという形がとれればと思っている。

会 長 まちづくり全体がストップするわけではなくて、しなければならないことは粛々と進めていく。総務企画課だけでなく、まちづくり推進課、保健子ども課、まちづくり交流室などオール南区でまちづくりを進めていければと思う。
今後の仮設住宅に関してお尋ねしたい。仮設住宅の自治会はどうなるのか。自治会の扱いは南区で考えるのか。本庁で考えるのか。

区民部長 仮設住宅の管理・運営については、復興部の住宅再建支援課が担っている。自治会組織については、それぞれまちづくり推進課に話がきていて、50戸以上については自治会を組織するということになるのか、地域の既存の自治会に組み込むことになるのかこれから検討していく。ただし、さんさん仮設住宅については、十数戸なので、既存の自治会に組み込むことが決定している。

会 長 私は益城町にも関わっているが、益城町は仮設住宅の数も多いので、最初から仮設住宅だけで自治会組織を立ち上げることを取り決めてある。熊本市はみなし仮設も多いので、益城町みたいにはいかないと思う。
さんさんは既存の自治会に組み込んでも問題ないが、心配なのは大規模な仮設住宅。「どっちがやるの？」という話で結局どちらもやらないということになると困ったことになる。なるべく、行政だけで対応できないときはまちづくり懇話会に相談していただくとアドバイスできると思う。

副会長 東北の事例で、大規模な仮設住宅をつくった場合のコミュニティのとり方は、大学などでもかなり研究されている。そういった事例を検討しながら、地域と仮設住宅内のコミュニティをうまくとれるような仕掛けづくりをやっておかないと孤立するケースが出てくる。

阪神・淡路大震災や中越沖地震の後に孤独死が多数発生したこともあって、東日本大震では孤独死を出させないということで大学や民間が入って、それに行政も加わっていろんな取組みをした結果、いい成果が出ていると思う。

熊本地震では孤独死を出したらいけない。私の家内は民生員をしているが、地震後は2日に1度は独居のお年寄りのお宅を訪問している。仮設住宅では、独居老人を誰が見るのか心配している。仮設住宅については、何らかの形での支援が必要と思う。

会長 私は、益城町とか熊本市とか区切った考え方はしたくない。今回、熊本県内で行政区間を越えて、益城・御船・熊本市東区・熊本市南区が同じように被災している中で、熊本県民が一緒になって復興していくという考え方が大事だと思っている。

これから、意見交換に入りたい。今、こういう状況だからこそ考えなければならないことやしなければならないことなどについて、お話していただきたい。

副会長 東北に災害支援に行ったときに思うのは、地震などの災害は忘れてしまうということ。学生時代に東北の地震を調べていたときに、1,000年前に起きた貞観地震の後の「ここまで津波がきた」とか「これから下には家を建ててはいけない」という石碑が、谷沿いや集落沿いにいくつも残っていた。それを伝承していった地域は、東日本大震災でも助かっている。

何らかの形でこういった災害があったことを次の世代に伝えていくことが大事。実際に、熊本でも明治時代に大規模な地震が発生しているが、それを知っている方は殆どいない。

今回の震災をどのようにつないでいくのか、また被害にあった方たちへの支援、特に被害がひどかった農業への支援をどのようにしていくのかということはとても大事。

- 福原委員 秋津に比べると広範囲ではないが、液状化が発生し、水路に高低差ができてしまっている。地震後に水路を誰がみるのかという問題があった。飽田・天明・幸田は農区長制度がかなり浸透しているが、合併後間もない富合・城南は農区長制度がまだ完全に機能していなかったため、被害状況の把握がなかなか進まなかった。また、国からの補助金の手続きについても他の地域に比べて温度差があった。今回の地震を受けて、農区長の集まりを定期的に行う必要があると感じた。
- 会 長 これから、徐々にそういった集まりを増やして行って、液状化の場所を確認したりして、地震の振返りを行う必要があると思う。熊本のすごい所は、自粛ムードという感じがなく、被災した人もしなかった人も一緒になって地域にお金を落とそうとしているところ。南区で共通で何かできること、現在計画していることはないのだろうか。
- 事務局 復興のためのグッズは作る予定だが、その他のイベントについては、今のところ、まだない。
- 会 長 今年度は「南区まちづくりワークショップ」を行う予定だったが、やむなく中止となった。私は以前から、「ワークショップ」と「まち歩き」をセットで実施したいと思っていた。「ワークショップ」は無理だが、「まち歩き」はできるのではないか。たとえば、「まち歩き手帖 VOL. 1」のコースを懇話会のメンバーと区民のみなさんで歩いて、被災しているポイントを確認することはできると思う。
- 上田委員 「まち歩き手帖」や昨年策定した「フットパスコース」の点検はぜひやらなければいけないと思う。それも加えて、南区は文化財も豊富だが、文化財のチェックは後回しになるのではないかと心配している。城南には戦争遺跡もあって、城南病院の横の火薬庫だった倉庫がかなり傷んでいる。玉名市の高谷先生がとても心配されていて、こういった遺跡を保存したり、修復したりするよう働きかけされる予定。そこだけでなく、塚原古墳もかなり貴重だが、川尻小学校の子どもたちに「城南に前方後円墳があるよ」と言っても知らなかったりするの、南区の子どもたちが歴史の

勉強をするときには塚原古墳のことを伝えていきたいし、古墳の点検もしてほしい。

会長 南区のいいところを見直したり、点検したりするためのまち歩きを、今年度の事業で実施予定の「自然を活かした地域連携支援事業」の中で実施できればと思っている。

副会長 第1期まちづくり懇話会には、塚原古墳に造詣がある委員さんもいらっしやったので、前期の委員さんにもお声かけをしてまち歩きをしてもいいのではないかと思う。
「自然を活かした地域連携支援事業」については、去年は金井委員が事務局として活動されていたが、どうか。

金井委員 今年、昨年に引き続き「穴掘り大会」を実施する予定。早めにご話をもって、「まち歩き」を組み合わせるという形であれば可能かなと思う。
今回の地震で、神社・仏閣が被害を受けている。もちろん、何の補助もないので、私のお寺もかなりの負債を抱えてしまった。地域で守っているお堂については、修理する人がいないため、放っておかれている状況にあるので、何かしらの支援があればと思う。そういった状況もまち歩きの中で見ていただくことによって、地域の課題としてみんなの共通認識になればと思う。

会長 まち歩きについては、何らかのイベントと抱き合わせで実施することによって、相乗効果が生まれればという気がする。
それでは、地震後の各地域の状況をそれぞれお話しいただきたい。

兼田委員 今回の地震で地域公民館、コミセンの役割について考えさせられた。非常時に地域公民館、コミセンに何ができるのか。行政や地域とどのように連携をとればいいのか。とても迷っている。
本日の懇話会で、他の地域で実施されているイベントのチラシをいただいたが、地震後にこんな活動をされているのかと感心している。このような動きが南区全体に広がっていくのが理想。また、活動の内容に加えて、チラシの出来栄もすばらしいので、これから参考にさせてもらいたい。
現在、校区自治協議会とかまちづくり委員会とかコミセンとか自

治会連合会とかいろんな活動がミックスされていて、自分の中でも本当にこれでいいのかと自問自答しながら、この会に参加している。

会 長 では、このチラシを作った方から活動の秘訣を教えてください。

金井委員 「川尻わっしょい」は、川尻青年協議会の主催で、もともとは子どもたちの思い出づくりのために川尻の元気な青年が集まって始めたイベント。今年で9回目だが、かなり規模が大きくなってきていて、「今年は何があってもやろう！」ということで復興祈願をかねて開催する予定。

チラシの広告欄の協賛金と「わっしょい引き」という抽選会のタオル代の売り上げで運営している。20代～40代の十数名が全員ボランティアで携わっていて、収支はトントン。

宮本委員 天明は、昨年まで自治会と天明公民館の主催で「天明市民のつどい」を開催していたが、開催場所である天明ホールが熊本地震で使えなくなって、中止になった。そのことを受けて、天明商工会青年部が主体となって「がんばろう天明！復興祭～smile to children～」を計画した。開催場所の問題や駐車場の確保などで天明総合出張所にも協力していただいた。「川尻わっしょい」と同じ日に開催する予定。

上田委員 チラシの裏に書いてある「商店街にぎわい創出事業」とは？

宮本委員 国からの補助金。残りは協賛金でまかなっている。

兼田委員 チラシのデザインは？

宮本委員 天明の業者さんをお願いした。

金井委員 川尻は川尻出身のデザイナーさんをお願いした。

田中所長 飽田は飽田公民館が作成した。

辻田委員 日吉東校区では、7月25日に健康まちづくりワークショップを開

催した。出席者は全員高齢者で、地震に対する意見がかなり出たが、これから地域を担っていく若い方の意見が聞けなかったので、保健子ども課に協力してもらって、日吉東小学校の教育懇談会の後に残っていただいて、ワークショップを開催した。また、8月上旬に「ぴよぴよクラブ」に参加された乳幼児のお母さんにアンケート調査を行ったので、保健子ども課にお願いして、それぞれの意見を集計してもらっているところ。

副会長 やはり、人集めは大変。どうしても高齢者が多くなってしまうので、いろんな工夫をしないと若い人の意見を吸い上げるのは難しい。いろんな会合や教室の後に実施するというのはいいいアイデアだと思う。

会長 私も、復興まちづくりのワークショップのファシリテーターを務めることになった。どんなワークショップにするか悩んだ末に、市長に「午前中は高校生だけのワークショップをやりたい」とお願いしたら、快諾していただいて、市長がツイッターでつぶやいた途端、あっという間に70名集まった。午後は大人のワークショップを行う予定なので、みなさんも時間があったら、参加していただきたい。辻田委員がおっしゃったように、これからの将来を担う若い世代の声をどうやって拾いあげるか、活かすかが大事だと思う。

金子委員 富合ではウォーキングキャンペーンとして、4月18日に竹の子掘りを兼ねた山登りを行う予定だったが、地震で中止になった。また、夏のサマーフェスティバルも会場が使えないこともあって、中止になった。南区“いきいき”フェスタや新幹線フェスタは開催予定のようなので、そういったイベントに地域で協力するつもり。今、私が気になっているのは、仮設に入って地域から抜けた方とのつながり。地域の集まりやイベントがこれまでのように継続されると仮設に入られた方とのつながりも保てるのではないかと思う。

会長 確かに、仮設先でのコミュニティも大事だが、元のコミュニティも途切れさせてはいけない。

金子委員 残っている人たちも被災した家の片付けに専念して、家にこもっ

ているとひきこもりになってしまう。六殿宮の秋季大祭も神事だけで流鏝馬は中止となり、地域が寂しい状態になっている。

会 長 富合はフットパスコースもあるので、地域でまち歩きを兼ねた点検をしてほしい。

金子委員 地震前に隔月で実施していたフットパスイベントも現在は休止している。コースの点検も素人では判断が難しい点もあるので、南区で取り組んでいただければと思っている。

会 長 「まち歩き手帖」のコース確認を行う際に、南区役所の職員だけじゃなくて地域の有志の方も参加していただく形がとれるといいのではないか。

上田委員 私は和太鼓をやっているが、和太鼓の音は地震の地鳴りに似ているので、とても心配しながら演奏活動をしている。

あまりニュースにも取り上げられないが、高速道路の橋が落下した城南町から甲佐町府領にかけてあたりの地域はかなり被害を受けている。甲佐町府領は城南町舞原に近いので、城南町で何かするときには府領にも声をかけられたらいいなと思っている。今、府領の小学校の子どもたちは、校舎が使えないので、スクールバスで中学校まで通って勉強している。そのため、中学校の時間割が終わるまで待って、それからスクールバスで帰宅するので、習いごとでもできなくなっている。スポットがあたっていなくても大変な地域もあるので、みなさんに知っていただきたいと思う。

また、完全に全壊で赤紙が貼ってあるのに、そのまま住み続けている人がいる。「仮設に申し込んだとね？」と尋ねると「離れたくない」と言って、傾いた家に住み続けている。特に、農家は納屋できゅうりの仕分けをしながら寝泊りして、傾いた家のお風呂に入るという状況。もうすぐ仮設住宅の申込みも締め切りになると思うが、こういう人たちがいることもわかってほしい。

会 長 農作物をつくっている方たちは、その土地から離れられないという思いもあると思う。敷地内にプレハブをリースされたり、納屋で生活されたりという方が多く、問題になっている。日本では宅地に対する保険は未整備だったので、制度設計しているようだが、行政

の場合、今ある制度でしか支援できない。

しかし、上田委員がおっしゃるような情報をみんなで共有することは最低限できることとして大事。

上田委員 本当にいよいよ住めなくなったときに、仮設住宅に入れなかったらどうするのだろうと心配している。

島田委員 私も地域をまわっているときに、全壊だけど仕事が忙しくて仮設住宅の締切りを知らずに申込ができなかったという話や全壊だけでもっと酷い人がいるから大丈夫と言っている間に家が倒れたという話を聞いた。やっぱり、動きたくても動けなかったり、周りを気遣っている間に大変なことになったりといろんな方がいるのだなということを感じた。

富合は、サマーフェスティバルや体育祭なども中止になったが、他の地域は子どもたちのために今年もイベントを企画されているので、すごいなと思った。

今年も南区ウォーキングキャンペーンは実施されるようだが、昨年は富合からは一部の方だけが参加した。賞品とかはそんなに出さなくてもいいので、できるだけたくさんの方が気軽に自由に参加できるようにスタンプラリーのような形にしたり、個人参加にしたり、期間を長めにしたりというような工夫ができればいいなと個人的には思う。

会 長 今、復興会議で議論されているのは、コミュニティを大事にしようということ。そして、最終的には個人・世帯ベースの復興にかかっているということ。すべてを行政がカバーするのは不可能。だけど、日本は災害先進国なので、いろんな手段がある。あきらめないことが大事。また、みなさんのような方がいろんな情報をもっておくことが大事。

金井委員 私は、小学校 PTA の副会長をしているが、やっぱり子どもたちの心の傷は深い。何とか子どもたちを元気づけられないかということで、8月8日にPTA主催で近くのお寺の境内をお借りして縁日を開催した。

この縁日のきっかけは、昨年、コミュニティ支援補助金を利用して川尻小のキャラクター「ラックル君」を実物化してゆるキャラに

したこと。「ラックル君」がいろいろなイベントに登場することで子どもたちがとても喜んでくれる。今年は「ひごまるくん」と一緒にゆるキャラグランプリに参加している。私たちが地域で頑張ることによって、南区の活性化にもつながると思っているが、なかなか票につながらないので、何か打開策がないかなと考えている。

上田委員 私も毎日投票しているが、なかなか上がらない。

宮本委員 商工会の事業は、地域振興と企業の経営支援になる。今年は、「がんばろう！天明復興祭」で地域の活性化に努めている。経営支援では、国からの持続化補助金。地震の被害を受けた場合、その修理費用を補助するものだが、熊本地震後に熊本と大分に限って上限額が50万円から200万円に引き上げられたこともあって、申請件数が激増し、かなり忙しい状況。

会 長 今回の地震で事業をあきらめる方もいらっしゃるのだろうか。

宮本委員 今のところそういった話は聞いていない。皆さん、前向きに頑張っておられる。

会 長 私は、山都町にも入っているが、山都町では熊本地震の後の豪雨災害がひどかった。ちょうど田植えの次の週にあちこちで土砂崩れが起きて、高齢者の中には「もうやめる」という方もいらっしゃるようだ。そういった方へ少しでも支援ができればと思っている。そういった意味でも持続化補助金は貴重。

赤松委員 地震の前と後はつながっているという最初の一言が印象に残っている。私も地震で怖い思いをしたが、意外と忘れかけてきている。「益城町や熊本城に行った？」とよく聞かれるが、まだ行っていない。熊本城の姿を見て、「まだ地震は終わっていない…」とショックを受けるのが恐かった。でも、今日の話聞いて、自分の地域を歩いて、被害状況を自分の目で確認することも大事だと思った。まち歩きをして、今回の地震を次の世代につないでいければいいなと思う。

子育てに関しては、南区の子育てサークルの全体の交流会を計画していたが、地震で南区内の体育館が使えない状況。でも、あきら

めていない。何とか開催して「子育て」から少しでも南区を元気にしたい。南区の各校区が横につながっていくことで、相乗効果が生まれることを期待している。

会 長 なかなか南区全体でというのは大変だと思うが、いろんな方が参加できるような敷居の低い集まりで、いろんなつながりをみつけてほしい。

平川委員 ちょうど地震の翌日に食生活改善推進員の総会を予定していて、中止の連絡をするところから始まった。避難所に食事を作って差し入れた食生活改善推進員もいたが、全員にいきわたるわけではないので、「どうしてあの人だけ？」という苦情が出た。そこで、市役所の事務局に相談して、要望があった避難所で支援物資の缶詰を使って、食事を作ったが、避難されている方から提供の仕方について苦情が出たこともあり、自分の力のなさを痛感した。もう少し行政と連携した取り組みができればよかった。

一方、私が住んでいる土河原では、危険な塀などがあったが、ボランティアさんに危険な作業はさせられないので、自治会長さんが呼び掛けて地域の有志がブロックの撤去作業を行ったりと、復興・復旧のために地域一体となった。

会 長 水と食べ物の重要さは、今回の地震で皆さん身に染みて感じたことだと思う。できるしこで頑張るしかない。できなかったことを悔やむよりも、できたことを褒めればいい。
今回のことを糧にして、今後は行政との連携が進むといいなと思う。

井村委員 中無田閨門で、5月5日にプレイパークを予定していた矢先に熊本地震が起きて、学校も休みになった。プレイパークは是が非でも実施しなければならぬということで、強行したところ地震の後だったが、130人くらい集まった。

地震の時、天明地域は津波警報が出たので、予告なしで「ただいま訓練。津波警報発令。高台に避難してください」と言うと、全員きちんと高台に避難することができた。避難した後は、自助・共助・公助の話をして、アルファ米を子どもたちにふるまった。

今回の地震では被害の程度に差があったので、避難所でアルファ

米を食べた子もいれば、避難する必要がなかった子もいる。子どもたちにはいろいろな経験をさせたかったので、今回は避難訓練とアルファ米の試食もとりました。

プレイパークでは、カヌー下り、川遊び、釣り、ヤギとのふれあいなどを体験させている。プールで泳げる子も川では泳げない。自然と触れ合う遊びで子どもたちは成長していく。8月は150名くらいの参加があり、市外や県外からの参加があった。こういった子どもの遊び場を確保するためには、続けることが大事。皆さんは費用を心配されるが、子どもの遊びに費用はいらぬ。やたら、施し物などは出さないほうがいい。1日中遊びたい人は、自分たちで弁当を持ってくる。もっと活動の宣伝がうまくできればいいと思うが、なかなか難しい。

兼田委員 構成メンバーは？

井村委員 加勢川開発研究会のスタッフ20名ほどで運営している。参加者には必ずライフジャケットを着用させている。

金子委員 孫を参加させたいと思っていたが、いつも終わった後に新聞で知ることが多い。チラシはどこで配布しているのか。

井村委員 天明総合出張所にチラシを置いている。次年度から5月5日と8月16日と決めるので、覚えてほしい。

辻田委員 私も新聞を見て、孫を連れて行けばよかったと思った。

会 長 熊本地震の後にこういった活動をいつものように続けられたのは素晴らしいこと。また、来年からは開催日を固定されるということなので、ずっと継続して行ってほしい。

吉村委員 私は歴史資料を集めるのが好きで、ある旧家から明治22年の熊本地震の資料を10年くらい前にもらって、県と市の危機管理の担当課に持っていったが、全く興味を示してもらえなかった。明治時代の熊本地震でも川尻は大規模な被害を受けて、熊本市の死亡者二十数名のうち十数名は川尻だった。幸いなことに、川尻については仏像や石碑などは震災の前に調べ

てしまっていた。残念なのは、墓場については調べる前に殆ど倒れてしまった。

天明・飽田・城南についても、まだ、まとめてはいないが、全数調査の記録だけはしていた。これからどうでもいいものは消えてなくなるのではないかということをお心配している。

会 長 川尻でまち歩きをするときは、ぜひ吉村さんに案内をお願いしたい。

福原委員 富合・城南にライスセンターが 5 基あるが、富合は若干の被害を受け、城南は壊滅的な被害を受けた。そこで、新たなライスセンターを建設するための委員会を立ち上げたが、総事業費が 33 億円という試算になり、頭を抱えていたら、国からの経営育成事業で半額補助を受けられることがわかった。激甚災害なので、県にも補助について相談したら「市が出すならば」という返事があり、市長にお願いしたところ前向きな返事があったので、ホッとしているところ。ちょうど麦刈りをする時期に熊本地震が発生し、麦をどうするかという問題があったが、宇土と富合で受入れをした。これから 10 月に稲刈りが始まるが、城南分は富合で対応する予定。私は、東日本大震災の後、もち米を 5 年間送っていたが、今年は止めて、熊本の仮設住宅 2 ヶ所に、ボランティアでもちつきに行く予定。

会 長 東日本大震災から 5 年経っているが、まだ仮設住宅に住んでいる人がいる。熊本地震発生後は、中越で被害を受けた方や東日本大震災で被害を受けた方からも支援があった。こうやって日本は支えあっているのだと思う。
給水業務や罹災証明書の発行業務についても、他市町村からたくさん応援に来られている状況があるのは、熊本の人たちの対応がいいからではないか。地震で失くしたものは沢山あるけれど、得たものも大きいような気がしている。
みなさんそれぞれ地震で苦労されている中、こうして懇話会が開催できる南区はすばらしいと思う。

区 長 委員のみなさんそれぞれのお立場・発想で頑張っていただいていることは本当にありがたい。こういった活動が南区の復興につながる

っていると感じている。今回の熊本地震は、まちはそのまま残っていて、市民のみなさんが様々な被害を受けている格差震災。行政が公助の部分でどういったことができるか考えながら、防災・復興に対する考え方も根本から変えていかなければならない中で、本日いただいたみなさんのご意見をひとつひとつ分析しながらやっていきたい。

さきほど、本当に助けが必要な人が隠れてしまっているという話があったが、助けを求める基準も個人差があるためなかなか難しい。避難所から第 2 ステージの仮設住宅に移るわけだが、これからが一番エネルギーが必要になってくる。

広域連携については、市長も意識していて、職員にも「熊本市だけということではない」という話がある。広域都市圏としての役目を果たしていくつもりなので、これからもどんどんご意見をいただきたい。